令和6年度第2回佐倉市公民館運営審議会 会議録

日時：令和7年2月12日（水）午後1時30分～午後3時51分

会場：佐倉市立中央公民館 学習室3

出席者：藤崎言行委員長 田淵敦子副委員長

猪熊浩文委員 高木秀樹委員 岩井睦委員 藤崎貴之委員

廣田正子委員 片山喜久子委員 井原重之委員 森秀夫委員

内田理彦委員 井上隆夫委員 鴫崎金次委員 松本友枝委員（14人）

事務局：中央公民館長・土佐博文 和田公民館長・山本幹夫

弥富公民館長・秋山晴幸 根郷公民館長・佐久間丈幸

志津公民館長・今川真木子 白井公民館長・猪股佳二

社会教育課 主査・照井 慎，社会教育主事・吉成 崇

中央公民館 主査補・宇津木麻里，田中さくら子

【目次】

開 会

1 議 事

（1）令和6年度公民館事業評価について

（2）令和7年度公民館事業に向けて

2 報告事項

（1）令和6年度公民館事業中間報告（12月末時点）について

（2）令和7年度の市民大学開設予定について

（3）令和7年度佐倉市公民館運営審議会の予定について

3 その他

閉 会

【会議録】

中央公民館 土佐館長：

開会前に資料の追加と差し替えをお願いいたします。

追加資料として、こちら佐倉市民カレッジ有料公開聴講制度というプリント1枚と差替資料といたしまして、資料3の令和6年度公民館事業中間報告。こちらの差し替えをお願いいたします。

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回佐倉市公民館運営審議会を開会いたします。開会にあたりまして藤崎言行委員長からご挨拶をお願いいたします。

委員長：

皆さん、今年は大震災があった去年と違い、地震こそ起きていませんが、海の向こうのアメリカでトランプ大統領になって、いろいろ起きています。

そんな中、ちょっと思い出しました。もう25年ぐらい前だと思いますが、佐倉とオランダの児童交流を今もやっていますが、オランダから来た児童の1人が、「将来の夢は、アメリカ合衆国の大統領になります」と言ったのです。日本の小学生が、アメリカ大統領を目指すなんて、そんな夢の話はおそらくしないのですが、その子は真面目な意見でした。その子は、オランダの製菓会社の御曹司というお子さんでしたが、その子が目指したアメリカ合衆国の大統領

のイメージってどんなイメージだろうと改めて考えています。そんなことを考える子ども達を育てる学習環境、そういう環境の下で、そういう夢を持つ子どもが育っているのですね。いずれにせよ、日本の子ども達が、何だか小さいとか言われるのですね。

この席には先生方もいらっしゃいます。子ども達が大きな夢を抱けるような、そういう学習環境を社会教育ともども作っていただけたらと思います。これから次第に沿って進めて参りたいと思いますので、議事進行にぜひご協力をお願いしたいと思います。

中央公民館 土佐館長：

議事に入る前に、本日傍聴を受け付けましたところ、傍聴の申し出はありませんのでこのまま進めさせていただきます。

この後につきましては、委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

1 議事

(1) 令和6年度公民館事業評価について

委員長：

それでは議事に入る前に、出席の確認と、会議録署名人の方の指名を行いたいと思います。本日、金田一幸委員が所用のために欠席であり、今日は14名の方が参加していただいております。また、今回の会議録署名につきましては、名簿の順で内田委員と井上委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、議事に入りしたいと思います。

始めに、令和6年度公民館事業評価について、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

宇津木主査補：

はい。では、令和6年度公民館事業評価について、ご説明を申し上げます。

これは、令和6年度に実施いたしました事業につきまして、各委員の皆様から評価をいただき、公民館活動の運営改善を図ってまいります。

評価方法ですが、配布いたしました「【公民館作成】事業評価資料」と「事業内容を説明するパワーポイント資料」をご覧いただきながら、本日、各館の担当者により、評価対象事業の説明・発表を行います。

これを基に、事前に配布させていただきました「【委員記入用】事業評価シート」に、(各事業の)評価のご記入をお願い致します。事業ごとに、評価「A」「B」「C」のいずれかをご記入いただきまして、委員の付帯意見欄に所見・感想・改善案などをご記入お願いいたします。(事業評価シートのご提出は、後日で結構です。様式をメールでも送信いたしますので、メールでご返信いただくか、配布の返信用封筒にて中央公民館あてに郵送をお願いいたします。

本日は、発表を聞きながら、メモなどをお取りいただければと存じます。〆切は、期限が短く申し訳ございませんが、令和7年3月3日(月)とさせていただきます。

評価結果につきましては、取りまとめ次第、委員の皆様のお名前は伏せうえで、ホームページにて公表する予定でございます。以上、よろしくお願いいたします。

委員長：

ありがとうございました。ただいま、事務局より事業評価についての説明をいただきました。これについて何かご質問がおありでしたら、どうぞ。

それでは、これから事業評価を始めさせていただきます。始めに3館、また、後で休憩をとって残りの3館の説明をさせていただきます。始めに中央公民館、和田公民館、弥富公民館の3館を順番に発表していただきたいと思います。ご質問があった場合には、この3館の説明が終わった後に一括で受けさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、中央公民館からよろしくお願いいたします。

田中主査補：

私は、中央公民館の田中と申します、どうぞよろしくお願ひいたします。これから家庭教育事業「人間がつける動物の命の値段」の事例発表をいたします。それでは失礼して座らせていただきます。

本日の発表は、こちらの順に進めてまいります。最初に「実施に至る経緯」、次に「概要」、3番目に「実施に向けた中での工夫等」、最後に「成果と課題」で進めさせていただきます。

今回の事業は、2021年に横浜で起きたアミメニシキヘビ脱走事件の際、身近でも起こりうる問題にぞっとすると同時に、専門家の知識と推理に感動した私が、「白輪先生に講演をお願い出来ないか？」と考えたのが発端です。TV出演されている方なので「ダメ元」での気持ちでしたが、「私に出来ることなら」と快諾くださいました。

「動物の命について人間が主導権を持っている」現状について考える機会にたく考え、家庭教育講座での実施としました。

次に、「事業の概要」について、ご説明いたします。中央公民館の主催事業は、市民カレッジが無い夏休みにおこなうものが多く、当該講座も夏休み中に実施することとし、先生のご都合との調整をした結果、7月27日（土）としました。本当は2部屋確保し、集客状況により部屋を決めたかったのですが、あいにく学習室3が確保できず、大ホール一択になってしまいました。

開設趣旨は、こちらになります。動物達は「連れてこられた場所で、ただ生きているだけ」なのではないか？彼らの命は彼ら自身のものではないのか？カミツキガメの一大生息地として知られる印旛沼が身近にある佐倉市で、こうしたテーマを公民館事業でとりあげることは、意義があるのではないかと考えました。

次にチラシですが、チラシは、限られた紙面で少しでも読みやすい様に出来る限りシンプルなものを目指して作成いたしました。ですが、このチラシについては、周知してゆく中で、どういう講座なのかわかりにくい、せっかくその分野で名の知られた先生が来てくれるのだから顔写真もあった方が良くはないか？等々アドバイスいただき、改善をしてゆきました。こちらが、チラシの改良前と改良後になります。当初目指した「シンプル」とは異なりましたが、改良後の方が、「来てほしい！」という勢いを感じる印象になったと思うのですが、いかがでしょうか？

次に、講座の様子をご紹介します。参加者は39人で、お子さんの参加人数は21人でした。私は体調不良で当日不在だったのですが、後日、録画された動画で講座をみる事が出来ました。先生は知識や経験から、いろいろなお話をしてくださいました。

こちらは、講座後のアンケート結果です。参加くださったお子さんの学年は小学5年生が最も多く、満足度については、半数以上の方が満足と回答くださいました。

次に反省点です。主要なものを2つ挙げております。まず、講座の対象者です。今回、家庭教育講座とし、途中から「動物に興味がある一般の方も参加可能」としました。そもそも家庭教育講座は「大人と子どもと一緒に参加しなければならない」うえに、「子どもの年齢」まで設定されており、しかも、「その年齢幅が狭い」という事情もあるので、対象者要件が何層にもなります。今回の講座は、「興味があれば子どもも参加可能」として「一般成人向け講座」とした方が、集客がスムーズだったのではないかと考えます。次に、やはり映像についてです。私自身、講義に映像がそれほど無い時代に学生時代を過ごしたため、「映像は有るのが特別、無いのが普通」くらいの感覚でおりましたが、今は『『映像は、あって当然』と捉えられている時代』なのだ痛感しました。これらの反省点については、今後の事業に活かしてゆこうと考えております。

こちらは、抜粋したアンケート結果です。字と内容から判断し「大人」と「子ども」のアンケート結果を幾つか抜粋しました。大人の方からは、「子ども向き内容ではない、難しい、絵が欲しい」と感想をいただいたり、「子どもには映像や何かあった方がよかった、話だけだとあきっていた・・・」という感想がありました。

こちらは、子どもさんからのアンケート結果です。小学5年生が「佐倉にカミツキガメがふえた理由がしくてよかったです。」と書いてくれたり、小学4年生が「満足」に丸をつけ、「すごいおもしろかった」とつけ足して、「さらにりかいがふかまった」と書いてくれたりしました。また、小学5年生が「自分の実話などを話していて面白かった。」と書いてくれたり、小学4年生が「第一線でご活やくされている先生のお話を聞いてよかった。」と書いてくれたりしました。

これら、大人から「子どもには難しすぎる」等の感想が寄せられた一方、子どもからは「すごいおもしろかった」という感想も寄せられたことから考えますと、個人差はあるとしても、子ども達は大人が思う以上に様々なことを考え、理解する力もあり、大きな可能性を持っているのではないかと考えます。

最後に課題になります。「難しい内容」は、本当に子どもには無理」なのでしょうか？ アンケートで指摘された「難しい内容」の定義が難しいので、別の言い方をしますと、果たして「大人が考えるところの『子ども仕様』に企画した内容」で子どもの好奇心を十分満たすことは出来るのでしょうか？

幸いにも営利目的ではない事業主体として、担当としては、「子ども向けの講座でも『子ども仕様』にしたくない」という思いがあります。しかし、公民館の事業としては「子ども向けの講座は『子ども仕様』にする」ことが好ましいのかもしれませんが。こうした両立し難い点について、その他の諸条件（予算、講師等々）も勘案しながら、いかなる落としどころを見つけて事業を企画していくのか？ということ、今後の大きな課題と考えます。

以上が、家庭教育事業「人間がつける動物の命の値段」の事例発表となります。ご清聴ありがとうございました。

古山主査補：

和田公民館の発表は青少年教育事業となります。その中から佐倉っ子塾伝統文化体験教室の事例発表をいたします。和田公民館の古山と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

本事業につきましては、3教室で構成し発表させていただきます。写真は体験講座で参加者の方が作成した作品になります。1つ目が和田公民館で長く活動されているはたおり保存会の皆様に講師として実施したはたおり親子体験、2つ目が和田公民館主催事業の手芸教室の皆様が講師を担当した夏休み手芸体験になります。

本事業につきましては、身近で親しみやすい伝統文化等の体験学習を通じて想像力を育むことを目的として実施いたしました。なお、スライド後ろの写真は、和田ふるさと館にある畑で、はたおり保存会が栽培管理している、綿と藍です。

続きまして、こちらの写真は、はたおり親子体験の講師、はたおり保存会が活動する様子です。昭和52年結成後、和田地区に伝わるはたおりの技術・文化の伝承に尽力されています。今年度保存会さんは、今回発表のはたおり親子体験、小学生への見学対応、JR市民ギャラリーでの展示、和田工芸講座講師、市制施行70周年事業の記念品の作成など、さまざまな活動を実施しております。

それでは、はたおり親子体験教室について説明させていただきます。実施時期は、令和6年7月20日（土）、午前の部10時から正午、午後の部午後1時から3時、募集方法は令和6年7月1日号のこうほう佐倉へ掲載を行い、電話申し込み（先着順）としております。実施対象は小学3年生から中学生とその保護者、募集組数は12組（午前の部、午後の部各6組です。当日の参加者数は午前の部5組12名、午後の部3組7名でありました。

参加申込者数及び参加者数については、機械数等にも限りがあり、1組の申込数も変動することから募集締切日において講師と相談の結果、部門変更を行い、定員に達したとの判断でありましたが、当日急遽お休みの方が出てしまったため最終的な参加者が少なくなってしまったものです。

続きまして、当日の講座の様子ではありますが、はたおり保存会のメンバー8名が参加され、体験参加者を綿繰り、糸とり、機織りの3工程に分けて丁寧に説明を行っており、体験に参加した方々も貴重な体験に熱心に楽しそうに取り組んでいる様子が伺えました。

2つめの和田公民館主催事業の夏休み手芸体験についてご説明させていただきます。

手芸教室は、昭和50年に「長命大学」の「手芸クラブ」として活動をはじめました。平成30年に「和田市民大学・手芸教室」と改め、現在は10名の生徒が在籍し、夏休みに地域の小学生を対象とした手芸の講師をしていただいております。

それでは、夏休み手芸体験教室について説明させていただきます。実施時期は、令和6年8月2日（金）、午前10時から午後2時まで、募集方法は和田小学校児童保護者へチラシを配

布しました。実施対象は和田小学校1年生から6年生、10名先着順です。当日の参加者は8名でありました。

続きまして、当日の教室の様子であります。手芸教室のメンバー6名がマンツーマンで作り方を教え、細いリボンを2本井形に組みながら時間をかけてリボンストラップを作っていました。参加者は初めての手芸に集中して取り組みました。

お昼には、参加者と手芸教室のメンバーがお弁当を一緒に食べ会話をしながら世代を超えた交流ができました。難易度が高めで根気がいる作業でしたが、完成すると達成感を感じている様子が伺えました。

最後に3つ目のしめ飾り講習会について説明させていただきます。本教室は、長く、地域の民俗資料の収集保存、地域行事等の実施の活動を通して、教育、地域づくりに寄与されてきた和田小PTA民俗資料収集委員会の事業で、和田地区に伝わる伝統や文化を次世代に伝えることを目的として実施したしめ飾り講習会でございます。こちらの団体については、公民館が事務局を担い育成支援を行っている観点から本事業として報告させていただいております。

今年度は和田小学校のご協力をいただき小学生4・5年生11名を対象として授業の一環として実施しました。本事業で使用した、藁の材料や、松の葉、やぶこうじは、地域の皆様にご協力いただきました。子どもたちが和田地区で作られた藁を使い、しめ飾りを作ることを通じて、生まれ育った和田で培われてきた文化とお正月を迎える日本人の心を体験することができました。

最後になりますが、本事業の成果としましては、身近で親しみやすい伝統文化等の体験学習を通じて想像力を育むことができた、地域の伝統文化を題材とすることで、地域の伝統文化の発信や次世代への伝承を行うことができた、また、地域で長く活動する団体等に講師としてご活躍いただきながら、地域の世代間の交流ができたことです。

課題としましては、地域の高齢化率の上昇や児童数（若年人口）の減少により、事業を支える団体の育成（維持）や安定した参加者の確保といったものがありますが、本事業につきましては、今後も継続して実施して参りたいと考えております。

以上をもちまして、和田公民館の発表を終了させていただきます。

長沢主査補：

これから成人教育事業の佐倉学入門講座「弥富自然散策観察会」の事例発表をいたします。私は、弥富公民館の長沢と申します。よろしくお願いたします。本日は、ご覧のとおり、講座の概要から順に説明してまいります。

最初に、「弥富自然散策観察会」の概要について説明します。

こちらの講座は、平成18年度から「ふるさと弥富散策会」の名称で実施されておりました。そこから平成21年度までは春2回と秋1回行われており、翌平成22年度から29年度は主に3月に行われていました。平成30年度から令和2年度は、新型コロナウイルス感染症や他の要因としては天候でしょうか、中止になっています。翌令和3年度から、佐倉学入門講座として「弥富野草散策観察会」の名称で実施されています。なお、令和3年度は、5月14日に実施されましたが、そのときの一部模様をYouTube「佐倉市生涯学習チャンネル」に公開しております。昨年度から、野草だけではなく弥富の自然全体をテーマとしたいため、「弥富自然散策観察会」と名称変更して実施しています。

本講座のねらいとしては、弥富地区の豊かな自然・植生・野草・史跡等を散策・観察し、ふるさとへの関心を高め、散歩のように気軽に楽しみつつ、現地の散策・観察会を通して、郷土を学ぶ機会とすることです。ただし、散策路の歴史的背景などに踏み込まず、あくまで、気軽に植物などを観察しながら自然の中を楽しく散策しようという趣旨で行いました。

なお、講師は、佐倉みどりの基金理事・自然観察指導員で、佐倉市公民館運営審議会委員の井上隆夫先生です。井上先生、その節は誠にありがとうございました。

こちらは、散策予定コースです。森林と田園風景も楽しめるコースです。弥富公民館を出発し、隣の小学校を通り、田んぼの横を歩きます。川を渡り、長国寺というお寺さんの横を通ります。そこから坂道を歩き、皇産霊神社に行きます。

こちらの神社は、後でまたお話しますが、中に沢山の絵図があります。そこから左に森林・右に田んぼが広がる風景を見つつ歩き、飯塚古墳群の脇を通り、弥富公民館に戻るルートです。すべて回ると、所要時間は約3時間になります。

次に、講座の実際の様子を少しご紹介します。

当初は、応募者11人全員と公民館運営審議会委員3人が参加する予定でしたが、当日の参加者は7人、うち公民館運営審議会委員1人となりました。

ここから、散策の様子を写した写真をお見せしていきます。講師の井上先生は、道端の野草や、森林の樹木などについて、分かりやすく、時にはユーモアを交えながら説明いただき、参加者からは大変好評でした。

当日は全般的に天候がすぐれなかったのですが、参加者は、自然豊かな飯塚に生育している、住宅街ではあまり見られない野草や木の様子に、興味を持って見学し、満足されていました。途中の長国寺の前では、井上先生から歴史のお話も頂戴しました。

ここからは、実際に井上先生にご説明いただいた植物などを紹介していきます。左にアケビ、右にアオツツラフジがあります。こちらは弥富小学校を通った少し先にありました。右上のアオツツラフジは、一見ブルーベリーに似ていますが、毒があり食べられません。が、中にある種がカタツムリみたいな形をしています。ここでお見せ出来ず申し訳ございません。左下のガマは、ちょっと分かりづらいですが、穂先がふさふさしていて大きなソーセージのような形をしています。右上のカラスウリ、花はすぐ下のふわふわした感じになります。こちらは少ししぼんでいまして、本当はもっと外の綿毛みたいなものがぱっと大きく咲くそうです。左下はヒヨドリバナ、小さくふわふわした面白い形の花です。

ただ、昨今の地球温暖化の影響で高温が長続きし、これまでこの10月の時期の見られるような花や実がなかなか見られない、ということが起こっています。そのような中での植物観察は条件が良くなく、大変なところもあります。

植物だけでなく、蜘蛛もいました。左はジョロウグモ、右はナガコガネグモです。

また、多くの絵馬が奉納されている皇産霊神社にも足を運びました。皇産霊神社は応安3年(1370)建立の神社です。前にイヌシデの大木があります。神社の中に入れていただきました。そこには、明治期に描かれた寺社参拝図などたくさんの図画があり、参加者はそれを見て感嘆していました。ところが、途中で雨足が強くなってきました。皇産霊神社を出たところで、もと来た道を引き返し、弥富公民館に戻りました。天候はどうしようもありませんが、予定していた全てのコースを散策できず残念でした。

昨年10月にも同じ飯塚地区を散策する観察会を開催しました。しかし、その時は参加者が5名と少なかったため、今回は広報活動に力を入れました。こうほう佐倉のほかに、佐倉市公式LINEやちいき新聞を活用しました。ちいき新聞に募集記事を掲載させていただいたおかげで、他市から2人参加されました。

また、ポスターの配架も、公共施設のみならず商業施設にお願いしました。なお、参加者の応募のきっかけは、ご覧のとおりです。

次に、講座の成果・課題とその対策についてお話します。

参加者からの感想は、天候がすぐれない中ではありましたが、「その場で質問できるのが良かった」「知らなかったことを知ることが出来て楽しかった」と好評でした。

一方、「雨で残念」「トイレ休憩があるとよい」などの意見もありました。

課題といたしましては、2点ございます。

まず、トイレ休憩ですが、皇産霊神社の絵馬が飾られていた建物の中でトイレ休憩が出来るので、次回から利用したいと思います。

また、散策コースが毎年同じようなものになってマンネリ化しがちになるということもあります。こちらにつきましては、講師や地元のかたにおすすりめコースを紹介してもらうなど、当方でも目新しいものを取り入れたりという一工夫が必要と考えます。そして、これからも、農村地域であり自然豊かである弥富地区の特性を生かした自然散策観察会は、「気軽に楽しく」をコンセプトに続けていきたいです。

以上で、佐倉学入門講座「弥富自然散策観察会」の事例発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

委員長：

ただいま、3館の発表が終わりました。何かご質問がありましたらお願いしたいと思います。最後の弥富公民館の発表の資料に「皇座霊神社」と名前が出ていましたが、「座」でなく「産」ですね。字を「皇産霊神社」と訂正してください。

あと、何か不足な情報、あるいは更に聞いておきたいなど、そういったことがありましたら。

ご意見や所見は、先ほど説明がありました記入シートに記入して提出してもらおう予定になっておりますので、今回は評価ではなく単純な質問ということでお願いします。

委員：

本来評価シートに書くべき課題もあると思いますけど、ちょっと皆さんに諮ってみたいと思っております。

まず中央公民館ですけど、これ私も実は参加させていただき、この講師の白輪さんという方は非常に有名な方で、日本爬虫類両生類協会の理事長ですね、紹介がもう1つ上のランクで紹介した方がいいかと。

子どもさんが非常に喜んだだろうなど。ちょうど休憩時間の時、写真を撮っていて。私のそばにいたのですが、大変興奮するぐらい先生と一緒に写真撮ったってことで喜んで。こういう先生をよく公民館にお呼び出来たなど、ちょっと感心したところです。それで実はですね、ここに映像があった方がいいと書いてありますが、私の個人的な感じは、そういう子ども達が非常に楽しそうな感じであればですね、素話で良かったらと思います。パワーポイントとか、そうしたものじゃなくて、その場で聞いて、今回の件で良かった。

11ページを見ていただきたいのですが、これは各公民館とも、今後の問題ですけれども、先生の話される場所、一番左の方の隅っこにあるのですよね。やはり子どもたちのことを考えれば、もっと中心に、会場の真ん中で先生の話をつっくり聞けるようなシチュエーションが必要ですね。

それからカミツキガメの件ですけども、先生はですね、動物には全部、命がある。いわゆる亀は、長寿長生きするとかですね、非常に大事にされている。先生は小動物を世界から輸入されております。それから、動物園の園長さんもされておりますので、亀については、そういう立場で話をされたのです。

千葉県はいわゆる捕獲計画を立ててですね、カミツキガメを駆除していると思うのですが、これについて、そのギャップをどう考えるかなと考えた時に、確か19ページのアンケートの子どもさんがですね、今度はぜひ静岡大学の加藤先生、池の水を抜くテレビで、外来種の捕獲をされている先生、確か印旛沼へ見えたと思うのですよね。この先生の話もぜひ聞きたいと書いてある。やはりそういう市や県の行政として、外来種は、やはり環境的な問題、在来種の撲滅あるいは農業の方が田んぼに穴を開けられて水が漏れてしまって大変だとか、そういう話もですね、ギャップとして話していただく機会を設けていただきたいなと思います。この小学校4年生の子どもさんが、ぜひ加藤先生の講座も期待していますって書いてありますので、公民館で機会を設けて実現していただければありがたいかなというのが要望です。

和田公民館の伝統文化体験講座ですね、地域に伝わってきた工芸とかそういうものを子ども達に経験してもらって、非常に素晴らしいことだと思います。お話を聞くと50年ぐらい続いている素晴らしい活動だと思うのですが、ちょっとですね32ページの成果に違和感を感じたのです。

例えば1つはですね、「想像力」を育むと書いているけれど、これは何だろうな。これはおそらく創作の創に、造るという「創造」だったらわかりやすいのだけど、その「創造」と今書いてある「想像」とどちらか、ちょっと説明してもらいたい。間違いじゃないかと思って。しめ縄とか機織りを経験する、そういうことについて知識を深めたという方がわかり易いのじゃないかなということで、「想像力」という表現に違和感を感じています。

それからもう1つはですね、「次世代への伝承を行うことができた」と書いてあるのですよね。これ素晴らしいことですけど、2時間くらいで子ども達に伝承出来たのかなと。やはりこれは貴重な経験をしたということで、伝承問題とは、ちょっと違うのではないかと。

子どもが和田地区に戻ってきて伝承するならいいけれど、どこかへ行ってしまうこともあるので、こういう伝承という言葉が、これは非常に保存会の皆さんも、2時間で出来るなら保存

会なんか知らないよって言うてしまうのじゃないかなということは、ちょっと厳しい言葉ですけど、注意していただければいいなと思います。

それから弥富公民館、弥富には、非常に素晴らしい山野草があります。素晴らしい希少種が自生しているのですよね。注意してもらいたいのは盗採、盗掘ですよね。

私も10年ほど前に市有地で、山野草の説明をしたり、いろいろやっていた。そうしたらですね、5年ほど経ったら全部盗られちゃうのです。今、YouTubeとかSNS、スマホで皆さん撮影して、こういうのをやってきましたよと、悪気無しに出すことが、どこに行ったとか。非常に注意しないと、この観察会というのは非常に難しいということで、公民館の方で、その辺の配慮をぜひやってもらった方が、今後、弥富の素晴らしい山野草は残していかないと。

こういうことがあって私は非常に後悔しまして、一切やめています。非常に真剣に考える必要があるのではないかと思います。

委員長：

ありがとうございます。今のご意見やご質問について、一番答えやすいのは和田公民館の件かと思いますが、いかがでしょうか。

和田公民館 山本館長：

山本と申します。ありがとうございます。先生ご指摘の通り「想像力」ですね、「創造する」という文字の間違いということで申し訳ございません。

次世代の伝承が出来たという伝承という言葉自体につきましてもですね、こちらの貴重な体験をしたということにさせていただければと思います。ありがとうございます。

委員長：

ただいまの事務局の説明でご質問がありましたら、よろしくお願いいいたします。よろしいですか。弥富の散策についても、いろいろなご意見がありました、盗採と出ました。今日、講師を務めていらっしゃった委員さんから一言。

委員：

いまお話がありましたように、希少野生植物がありますので、そういったものは特に触れないようにしております。いまおっしゃられたように、本当に盗られてしまうのですよ。他に持って行っても育たないので。そうですね。

例えば蘭の仲間だと蘭菌という生物と共生して生きているものですから、どこかへ持って行ってしまうと、商売の人は、その時だけ咲いていればいいのですが、2、3年経つと必ず枯れてしまいますので、そういったものは触れないようにして、畦道の植物とか道端にある俗に雑草と言われるそういったものを、どこにでも見えるものなのですけど、そうしたものでも生態系のお話とか出来るので、外来植物も当然そうです。

さっきの亀のお話もありましたけどね、そういったものを入れながらですね、やらせていただいております。

ただ弥富は本当に交通の便がネックになっていまして、自動車でないとなれない方が多いと思います。その辺が残念なので、まだいい場所がいっぱいあるのですけど、2時間、3時間のコースだと、どうしてもそこまで行かれないので、検討していただければなという思いがございます。

それから先ほどの字は、議長さんにお話いただいたように、これは「産」です。ご訂正お願い出来ればと思います。

いただいたマイクなので、ついですけれど、公民館はいつも素晴らしい講座をやっておられて、私自身も以前機織の体験をやらせていただきましたけれども、素晴らしい特色があるなと思いました。

それからお正月の飾りやられるようですけど、来年度の予定を見ると、成人向けにですねまだ工芸講座という形になって、子ども達が出来ないみたいなふうに読んでしまったのですけれど、ぜひ子ども達にもね、本当に日本の大事な伝統文化だと思いますので、お続けいただくと。藁も和田で出来た藁を使っておやりになって、すごく良いところだと思うので、本当に、

これからもよろしく願いいたします。以上です。

委員長：

〇〇委員さんからご意見いただきました。

公開することによって、言っていたらいいような、そういったことがね。講座を企画する側からは、来た人に喜んでいただける見学会がいいのだけど、その結果がね、ひどい始末になってしまうと非常に心苦しい担当者の気持ちがね。今後、注意して企画をやっていただきまして。

委員：

いや、すみません。今の2人の先生のご意見にちょっと反するので、あえて言わせていただこうかなと思うのですが、まず中央公民館の「人間がつける動物の命の値段」、これもものすごい講座だなと思います。今年で言ったら一番すごい講座だったろうな、着目がですね。なおかつその選んだ先生も、ものすごい、これはすごいヒットするだろうなと期待していました。

もちろん私も参加しましたがけれども、田中さんは、その時お休みだったみたいですけども。お子さん達でしたよね。そうするとお子さん達、みんな途中で飽きちゃって遊び出したり、あくびしたりしちゃっていたのですよ。

この時、なぜそうなったかっていうと、やっぱりターゲットが、ちょっと違ったのじゃないかなと。これを家庭教育にするというのは、やはり子どもの頃から動物の命を考えるとという意味でアプローチしたのでしょうかけれども、このタイプの先生だったら、これはもっとですね、成人の方に重きを置いてやった方がよかったのだらうなと思います。

例えば、これを家庭教育でやるのならば、サブの部屋を使って、子ども向けにですね、映像を使う、あるいは実物を持ってくる。亀とか魚とかだったらね、子ども達は、実物があった方が、はるかに喜ぶます。そうした方が良かったかもしれない。残念ながら、結果的に、ちょっと失敗かなと思いました。

ですから、テーマを見つけるのも先生を見つけるのも大事ですけども、もう1つ大事なのは、ターゲットをどこに絞り込むか、そしてそれをどういうふうに説明するか、そこをもう少し考えていただきたい。

それと同じように、先ほど、先生が、子ども系のものをかなり欲しいとあったのですが、機織にしるですね、そういったものについて、一般的に子どもの頃からさせるというのは1回や2回だし、沢山あることではないと思います。

実を言うと、リタイア組とかですね、お子さんが成長して離れた主ふの方で、機織に興味を持つ方は、ものすごく沢山います。でも講座を見ると、家庭教育なのです。ということは、何を考えるかという、その程度のレベルかと言うふうに考えてしまうのですよ。京都なんかそういうのが多いですけども、体験センターなんかいくらでもありますから、高度な機織の話を見せて、実際やらせてもらえます。

それであれば、まだニーズはあるはずですから、中途半端なターゲットの絞り込みは、ちょっと考えたほうがいいですから、やるのならば続けて子ども達にやらせる。これ飾り物だったら、子どもさん達だけでいいとかね、ちょっと両先生の意見とは違うかもしれませんが。ちょっと細かい話で申し訳ないですけども、以上です。

委員長：

ありがとうございました。いろいろな意見の方がございます。それぞれ評価用紙にですね、ご記入いただいて、担当者でまた再度咀嚼していただきたいと思います。

ひとまずここで、休憩とさせていただきます、35分まで休憩ということで、よろしく願いします。

菅原主査補：

根郷公民館の菅原です。根郷公民館は、今年度成人教育の根郷寿大学を発表させていただきます。よろしく願いいたします。

根郷寿大学は、昭和45年10月に開講。平成の始め頃までは、午前中講義をし、午後からサークル活動を行っていました。根郷寿大学から生まれたサークルは、シニアコーラス根郷

寿バトボンなどがあります。シニアコーラスの皆様には、毎年 開講式の時に校歌の指導をお願いしています。

開設趣旨ですが、高齢化が進む社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯感を持ちながら、充実した生活が送れるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などを学ぶ場として、また、交流の場として開設しています。

ねらいは、2点あります。学習の場を提供し、生きがいを持ち続けてもらう。様々なジャンルを学びます。交流を広げる場を提供し、孤立することのないようにする。班活動を活発に行い「知り合い」を増やし、お互いに学ぶことで、地域に還元する。

募集についてです。募集期間は、令和6年3月15日（金）～4月5日（金）定員は、80人 多数時抽選募集方法は、申込書に必要事項を記入し、返信用のはがきを添え、窓口を持参または、郵送 もしくは、ちば電子申請サービスから申し込み周知方法は、こうほう佐倉 ホームページ 各公民館等で募集要項を配架しました。

今年度の講座の内容です。文字が小さくて申し訳ございません。A4 サイズの物を添付してございますので、そちらを参照してください。色々なジャンルを学びました。後ほど、写真とともに詳しくご説明いたします。

先に、今年度工夫した点を4点挙げました。市でDXを推進していることや、事務の効率化を図るため、ちば電子申請サービスからの申込みを可能としました。昨年のアンケートで「班活動中も適用となる保険への加入」の希望があったため、希望者は、スポーツ安全保険へ加入することができるようにしました。昨今の気候変動による災害が頻発していることから災害について学ぶ時間を増やし、地域に還元できるようにしました。さらに、アンケートなどを反映し、コロナ禍で中止していた校外学習及び学びあい講座を復活させました。

それでは、事業の様子です。まず、開講式当日の様子です。さきほど、お話した、シニアコーラス根郷による、校歌の練習。練習するにつれ、声が出てきました。

班活動では、自己紹介から始まります。時間が経過するにつれ、みなさん打ち解け、各班和気あいあいの雰囲気が進んでいきました。

6月 佐倉の郷土の先覚者 津田梅子 5千円札の顔ですね

7月 DXについて ちば電子申請サービスの入力方法を学んでいます。

9月 地域防災について

阪神淡路大震災 当時の避難所とイタリアの避難所の様子を比較し、いかに日本が劣悪な環境に置かれるかを学びました。「日本は、避難者数と避難所の収容人数がイコールではないので、在宅避難を推奨する」。在宅避難は、まず「ケガをしてはいけない」そのためには、「家具等の転倒防止をして家の耐震診断を行うと良い」と講師がおっしゃっていました。

次に、自分が助かったら、「防災アプリを使って正しい情報を入手し、近所の人を助ける」ことを学びました。受講生は、積極的に質問をして今後活かしていました。

1月 校外学習。江東区にある埋立処分場とそなエリアの見学を行いました。そのエリアは、「発災後72時間をどう生き延びるか」を考える施設で、このスライドは、タブレットを持ち被災した街に出て、「この時、自分はどう行動すれば良いか」を、クイズに答えながら避難所に避難する体験をしている様子です。無事に避難が終わると係の方からの解説がありました。事業の様子は、以上となります。

11月に行ったアンケート結果です。関心のある歴史や健康については、いつもより多くの質問も出て、良い結果になりましたが、DXについては、私は、わかりやすく説明してくれていると思ったのですが、受け入れてもらえず「悪い」が16人と悪評となってしまいました。

成果ですが、いずれも受講生との会話の中で、「9月に学習した防災について、自治会の集まりの時に話をして、少し浸透した」という声が聞こえました。11月に学習した内容を継続し、健康維持に努めている人が多数いました。

課題ですが、3点挙げました。

1点目 班活動に温度差が出ている。積極派と消極派が同じ班にいてお互いに不満思っていると推測する。アンケートにもそれが出た結果だと思います。

2点目 この講座は、1年制で修了しても卒業ではないので、何度でも申し込むことができます。そのため8割～9割の方が継続していることから、講義内容に工夫が必要です。

3点目 年々受講生の平均年齢が上昇し、活動内容にも支障が出てきています。現に、5月

当初に校外学習の希望を取ったら、64人だったものが、実際に参加した人数は、46人でした。体調を気にしている方が多く見受けられます。班活動についても体力により、アウトドア派とインドア派の溝が埋まらずお互い不満になっているようです。

最後に今後の展望です。3点挙げました。

1点目 班活動の見直しを行う。会長や班長の意見を聞きながら、来年度に向けどのようにしたら良いか決めていきます。

2点目 きっかけづくりのために色々なジャンルの講義を提供していきます。来年度は、福祉関係を充実させていく予定です。

3点目 地域防災組織の立ち上げに向け支援を行う。少し、風呂敷を広げ過ぎましたが、まずは、「今年度 習ったことを地域の方に話してみませんか」という促しから始めて、それが広がり、いずれは、「地域防災組織の立ち上げ」に話が進めばと、期待しつつ私の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

菅沼主査：

志津公民館の菅沼です。団体育成事業の分野で、「2024（ニーゼロニーヨン）志津公民館まつり」をどのように進めたかを発表いたします。

志津公民館まつりは、昭和49年から始まりました。【志津公民館祭（しづこうみんかんまつり）】とはいったい何でしょうか。

開始から約10数年の昭和60年代。《飲食を楽しむまつりのイメージ》が強くなり、参加者が増え、規模も拡大していきます。一方で、実施方針に参加内容の工夫と見直しの声が上がっていききました。平成の時代は、10月の第3週の金曜日から日曜日の3日間開催に定着していききました。こどもの参加が増えるように近隣の学校にチラシを配布するなど、来場者の増加を目指しました。一時は、若い年齢層の参加もあり、参加しているサークルの方々の参加意欲も持ち直す傾向が見られました。

令和2年から4年の3年間は、新型コロナウイルス感染拡大を心配する真っ只中（まっただなか）でした。コロナの収束までは『当面、にぎわいは必要とされない、イベントをやるべきではない』と多くの方も肌で感じていた頃です。イベント中止が続く中で、時間だけが流れていき、サークル活動をしていてもやりがいを感じない、今まで、発表や展示など、地域の方に見てもらっていた機会が失われていくことに寂しさを感じているサークルの声が聞こえ始めました。まつりをやってほしいという声徐徐に集まり、『復活するなら、どうやっていくか』を検討するための会議を開きました。会議では、【絶対に必要なものではないもの】を削ること。それは、事業の規模を縮小した形で行うことだということサークルの皆さんに理解していただきました。まつりをすると役員になる、役員の負担が重いから参加したくない。そういった参加意識（さんかいしき）のマイナスとなる部分を軽減することがポイントとなると予測し、令和5年度は、実行委員会の役員6人と事務局が中心となって進めていききました。

従来祭りのイメージを変えることを模索した3年ぶりのまつりは、【令和5年度志津公民館サークルふれあいまつり】と名前を変えて、時代に即した新たな形で開催できました。

実施方針には、新しい生活様式に即した形で行うこととし、地域のサークルの皆さんの集まる場の提供をしたいのだということをもちかけて、参加への理解を図りました。

令和6年度の志津公民館まつりは、前年度のまつりに関心をもってくれたサークルが新たに加わり、サークル活動の様子が見えるチラシづくりや 見てる方に楽しんでもらえる内容を企画するなど、自発的に参加意欲をもってくれるようになりました。

参加サークルが増えることは場所の確保が必要です。参加サークルの発表の場を2か所で調整し、9月下旬に、西志津ふれあいセンターを会場に割り振った一部の参加サークルには、プレイベントとして志津公民館まつりの宣伝を兼ねて、マジックショーや手話ダンス、ギターやオカリナの演奏など、発表を中心としたイベントを開催しました。プレイベントにきてくださった方が、10月開催の志津公民館まつりにもきてくださり、多くの来場者からは、2度楽しめると感想をいただきましたので、まつりの周知効果を狙ったプレイベントは成功したといえます。こうした取り組みは、10月の【2024志津公民館まつり】に、つながっていききました。

事業の効果として、もう一つ、公民館事業の活性化を図るため、若い世代に関心をもってもらえるよう工夫しました。高校との連携した事業に取り組み、パンフレットの表紙イラストを

佐倉西高校美術部に依頼しました。高校生の発想を活かした事業は、今後も続けていきたいと考えています。

もうひとつ取り組んだことがあります。

参加サークルの高齢化の課題のひとつに、若い方が入会しないことが挙げられます。まつりは、サークル活動の成果を発表できる機会です。地域交流の場でもあることを意識して、まつりに向けて準備してきたものを、たくさんの方に見ていただきたいと、参加サークル独自の工夫とアイデアいっぱい企画を作り、会場を盛り上げました。盛り上がりを見せた企画は、手話ダンスを夏休みに一緒に練習した子どもたちは、手話ダンスサークルとの共演や、サウンドテーブルテニスの体験は、障がいのある方と健常者のかたと試合をして、ふれあうこともできたり、他にもたくさんありますが、今年は、バラエティーにとんだ内容となりました。

まつり会場にいらした地域の方からも、とても楽しい時間であったとの感想を多くいただきました。サークル活動の発表の機会があることで、みなさんにとっての日常生活が潤い、また、心の支えになっていると感じました。公民館では、お互いがやっていることを理解するために、参加されたサークルへの感謝込めて、さらに PR 効果もねらい、発表風景の写真を公民館会場内に掲示しました。

気軽に公民館情報を得たいと思っている人は、日常的にチラシやポスターの掲示物を見て、サークル活動を知っていただいています。リアルタイムでもサークル活動の発表を見て、知る、体験できる公民館まつりは、とても価値があると感じています。しかし、長く続いていたこの事業には、サークル会員の高齢化と役員の成り手がいない課題が残っています。この事業は、まつり実行委員会を立ち上げて、企画し、運営する事業です。役員の成り手がいないことには、まつりを継続していくことは難しいと感じています。

サークルのみなさんのやる気とモチベーションを高めていくために、現在、公民館まつり事業の見直しを図っています。歴史あるまつりを維持するという背負った荷物を降ろして、今いる自分たちが、新しい価値観をもって、サークル活動の活性化に向けて事業を展開できればと考えています。以上、発表を終わります。

臼井公民館 猪股館長：

臼井公民館・音楽ホール館長の猪股です。担当の職員が出席できなくなりました。代わりに館長の私が発表いたします。

臼井公民館からは家庭教育のジャンルで発表いたします。事業は、「おはなし会」です。事業の概要、当館による事業評価は資料のとおりでございます。スクリーンをご覧ください。

臼井公民館は、佐倉市民音楽ホール、臼井公民館図書室、臼井千代田主張所の複合施設です。公民館事業の企画においては、音楽ホールと図書室との連携、臼井・千代田地区の歴史・文化・自然等を軸に検討しています。

現在、佐倉市民音楽ホールは、施設命名権制度を導入して愛称として佐倉ハーモニーホールで公称しています。

当館事業の「おはなし会」は、公民館図書室と連携して開催しました。講師には臼井公民館で活動しているかたりべの会に依頼しました。対象は、幼児とその保護者です。

実施した事業の内容は、素話と絵本の読み聞かせです。

映像は素話の様子です。絵本や紙芝居、道具は一切使用せず、語りだけで進めます。幼児が話に集中できる利点もありますが、語り手にも技量が要求されます。

絵本の読み聞かせの様子です。絵本という媒体を伴うため、視覚に訴えることが可能となります。

事業の目的としては、物語と本に触れることで豊かな感受性を育むことです。さらに最近ではスマートフォン等で動画に慣れた幼児も多いので、このようなアナログな方法もいつもとは違う体験となるのではないかと思います。

広報・主知は、チラシを配架・掲示しました。画像は事業の様子です。受付と入口です。

おはなし会で使用した本は、展示して公民館図書室が貸し出しました。家庭での実践を期待しました。参加者数は、8/21が40人、12/21が31人でした。

事業の成果・効果としては、図書室の司書は、本を通じて想像力・好奇心・集中力を育むこと、おはなし会を参考に家庭でも読み聞かせを行い、こどもとのコミュニケーションが深まる

ことを挙げています。また、幼児から見ると、講師は保護者より上の世代ですので、世代間交流の効果も見込まれます。

最後に課題です。担当者は、公民館事業費の削減による講師謝礼や事業実施回数の減少を挙げております。このことにつきましては、公民館事業にも、企業・公益団体等の社会貢献・地域貢献、国・県の講師派遣事業を活用し、対象とならない事業に市予算を充当するなど工夫を続けてまいります。

今回は会場を展示室としました。幼児対象なのでマットを敷いたため狭く感じました。主催側としては、比較的広い集会室を勧めましたが、講師は「展示室のほうが話が近くてよい。」とのことでした。次回は、災害時の対応等も考慮して出入口が2か所ある集会室で開催すべきと考えています。

白井公民館からの発表は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

委員長：

ただいま、3館の発表が終わりました。何かご質問がありましたらお願いしたいと思います。

委員：

すみません。根郷公民館の件ですが、67ページを見ていただければと思います。これは全公民館に検討していただきたいことなのですが、アンケートの内容、いわゆる内容について評価して、例えばDXいわゆるデータベーストランスフォーメーションについてさっき話がありましたように、これは、受講生から見て講師を評価する感じですよ。

アンケートの内容が違うのではないかと、話を聞いて受講生がスキルアップ出来たと感じたかということアンケートすべきだろうと思います。だから健康についても、先ほど話がありましたけれど、この話を聞いて、毎月やっという教訓になったとかですね、これは教育ですから、やっぱり受けた人の立場で評価すべきだろうと思います。今までいろいろ私もお話した時にアンケートを見ると、自分が評価されているような形で、おそらくこのDXの先生にこれを見せたらですね、もうやめたいっておっしゃると思いますよ。

先ほどわかり易かったということでしたが、皆さんは若いからわかり易いけれど、ITならば、まだわかり易いけれども、デジタルフォーメーションは、データによって仕組みが違うという話ですから、やっぱり難しい話だったろうなど。ちょっと、やっぱり先生が悪いという評価になってしまうのではないかと。

今までの評価を見てみますと、そういう立場で先生を評価するのか、あるいは事業そのものを評価してもらうのか、あるいは自分自身の評価をするのか、分けるべきです。やはり教育ですから、もうちょっと勉強しようと思うとか、自分を評価するとか、そういうアンケート項目に内容を変更してもらいたいなど希望します。これは6つの公民館、館長が集まって、この評価については十分に項目を検討していただければ有難いと思います。

それから志津公民館について、公民館祭りはすごいですね、私も何度か参加させてもらったのですが、ものすごいパワーですよ。ちょっとお聞きしたいことはですね、76ページの右の方に、開始から10年経って昭和60年代に祭色＝祭食が強くなってと書いてあるのですが、この祭色というのは、祭りの服の色というのですよね。何を言っているのかなと思って、この意味を、ちょっと後でいいですから、教えていただきたいと思います。

それから2点目が、委託金という形でね、誰が誰に委託するのか。例えば佐倉市が実行委員会に委託する、その事業を任すのであれば、主催が佐倉市にならないといけない。そう考えた時に、この委託金をどういう判断で決めたのか。こういう基準をお聞きしたいなど。

それから白井公民館さん、すみません。非常にこれ大きな問題だろうと思って、これをこの場で解決出来るかわかりませんが、101ページに講師の謝礼を減らそうかなと書いてある。全6つの公民館が事業をやると言った時に、講師に対する謝礼がですね、佐倉市として公民館として規定されている。例えば設置管理などは、関する条例付則とかに公民館のか、部屋のね、料金が書いてあったと思うけれど、講師謝礼の基準をどれぐらい払うとか、交通費も払う、どうするかという基準があれば。減額という、あるのだろうか。

これは委員長にもお願いしたいのですが、もし無ければ、例えば受講生の受講料をどうするか、怪我が出た時の保険関係をどうするかとか。

やはり、公費を使って、我々公民館事業がされているわけだから、市民のお金を使ってやっていると考えれば、やはりこういう規定がね、ある程度はつきりしないと、単なる話し合いのもとに講師料を決めたりやるのは問題ということで、財務なのか監査なのか、何かそういうところと協議して、やはりきちんと決めた上で、講師料を下げるなら、6つの公民館が一律に下げべき。1つの公民館に行けば3,000円でした、こっち行ったら6,000円でした。そういうことが許されないで、それで早急に決めるのか決めないのか、決める時はどういう基準で決めるかというようなことをですね。だから中央公民館で、静岡から先生が見えたらね、新幹線の費用とか、一般の授業の講師料と一緒にだったら、いろんなことがありますので、その場その場で金を決めたのではね、やっぱり禍根を残すのではないかということ、ちょっと感じております。以上です。

委員長：

ありがとうございました。大変難しい。答え易いところからお答えを。はい。

臼井公民館 猪股館長：

臼井公民館の猪股でございます。ちょっと説明が足りなくて申し訳ございません。予算が少なくなっておりますので、単価を維持するなら回数を減らさなければならない。例えば4回出来ていたところが3回、そういった意味で申し上げました。

単価を維持すると、回数をもうちょっとやりたいなと思った時にそれが出来ない。読み聞かせのイベントを、例えば今回2回、例えば3回やりたいなと思った場合、予算が少なくなっていると出来ない。

委員：

いや、僕はその謝礼の減額と書いてあるから、何と言うか、全体の額の計画、全体の額の謝礼全体の予算、そういう基準、そういう目安。これが公民館にあるのかという問題が、これ大きな問題になるのではないかと。この問題点、そこだけお聞きしたいと思っています。あると言われたら、もうそれで。

臼井公民館 猪股館長：

はい。あります。市民カレッジの基準がございまして、それを利用しております。それを参考に算定しています。よろしいですか。

委員：

いやいや、話がちょっと違うのではないかと。それだったら私もね、例えばユーカリが丘に行った時に、ちゃんとね、向こうから、これは民間ですけど、はっきり文書で費用はこうですとね。何キロ以内から来られる方には通勤費は出ませんと明確に話をされて、実施しているのです。

だけど、公民館の場合は公費ですから、もっと厳格にして、単なるこういうものを参考にしていますではなくて、事業としてされるからには、2時間であれば、プラス、更にその中には、パワーポイントも入っていますよと。あるいは作成資料の原稿までは、そこから先は佐倉市が持ちますとね、そういうある程度の問題は生じるのではないかとということを心配しているわけです。

委員長：

すみません。私がお答えすることでもないのですが、各事業計画と予算要求との兼ね合いで、いわゆる財政からの査定や、それはその段階で減額というものが、講師料全体に対する減額というものが伝えられる。その中で担当者が工夫をして、予算を細かに配分していくと。個々の事業毎に配分していく、それが実態なのですよ。そうしたことで、委員さんのおっしゃっていることと、ちょっと予算要求のやり方というものが違って、ですので、それはまた別の機会でお答えいただいて。

志津公民館 今川館長：

すみません、志津公民館の回答をさせていただきます。76ページの祭色＝祭食という言葉についてですが、祭りが参加・発表のみではなく、インショップの飲食店が増えてきたという、お祭りが、発表のみではなくなっていると。加えて規模も拡大したという意味で。

先ほど委員さんのおっしゃった委託金のことなのですが、市から実行委員会に委託しておりまして、事業を運営等、すべて実行委員会にしようという趣旨なのですが、公民館の職員も会場で当日の運営についてはお手伝いをしておりまして、携わっております。

委託料の推移ですが、この委託料の決算については、実際、実施規模に応じて予算の方も推移しておりまして、コロナの頃については予算の方も減額になって、また復活してきましたので、印刷費ですとか消耗品ですとか、そういったものに使う委託料になっております。

根郷公民館 佐久間館長：

根郷公民館、佐久間と申します。

ご質問ではなくて要望ということでございますが、アンケートの内容については、自分の評価というところに焦点を当てた内容というようにしたいと思っております。以上でございます。

委員長：

ありがとうございました。他にご質問は。

副委員長：

予算の件ですが、本年度の臼井のお話し会、私も、これは公民館がやらなきゃいけない事業なのかという疑問がありました。図書館の事業でも良いのかも。公民館全体として、予算も含めて考えてゆくべきではないかと思えます。そのうえで、コスパを考えずに公民館として続けるべきものは続けるべきではないかと。

例えば、先ほどの中央公民館の「人間がつける動物の命の値段」という事業は、テーマはとっても良いし、けれど、発表の中でも、これは家庭教育ではなくて成人教育であれば良かったという反省をしっかり考えていらっしゃる。それが私は良かったなと思っていて。公民館は、こうした失敗もあり、失敗があっても、本当に重要なことは続けて欲しいと。そうしたことを続けることを、私たちがお手伝いをするべきなのだなということ、今日改めて思いました。

委員：

今の副委員長のご発言、すごい大事だと思います。何を主催事業にするかということは、本当に大事なことで、端的に言って、私は臼井のおはなし会は、昔から参加しているのですが、あれは図書館事業で良いのです。ただ、場所を絶えず確保するのが難しい、予算を取るとすると難しい図書館はね。だから公民館でやっているという感じ、少し違うかもしれませんけど、そういう流れもあったと思うのです。だから公民館それぞれ、公民館に何が必要かというのは、やっぱり考えなきゃいけない。そういった予算は、また別に考えなきゃいけない。

さっき□□先生の見解もあったのですが、今、公民館はお金を取っておりますけれども、本当は公民館法とか社会教育を考えたら、公民館は教育委員会教育施設ですから、お金を取るはずがないのですよ。今、そうなっていないのは、おかしいと私は逆に思っているのです。その中で、そういう議論がなされない中で、それについて議論するのはちょっと難しい、すでおかしな状況になっていますので、ちょっと追加してお話したいなと思えます。

さらに言うならば、お話し会はずごく良いと言ったのは、あの中で、お母さん方もお話ししているのですよ。長女の時も参加したけれど、次女の時にも来ているとか、それをお友達同士でね、お母さんが話しているわけですよ。こういうことは、本当に、公民館としてのあるべき姿の1つだろうなというふうには思います。そういったところを、この地域の繋がりと一緒に、考えてもらった方が良いのではないかな。ちょっとこの余計なことかもしれませんが、あえてお話をさせていただきました。

委員長：

ありがとうございました。他にご質問は。

委員：

最後にちょっと、これは本当に公民館の事業かどうかという議論は確かにあると思うのですが、これは各公民館長が責任を持って決めていると思うのです。公民館長が、この事業を今年度やりたいということで、この審議会に出しているわけですから、私もこの令和7年度の計画を一応読んできまして、それで、これはおかしいかなどかなということについては、この席で、議論するということが、この審議会の役割だろうと。

だから、これを今年度の事業にしますということは、各館長の責任をもって、こういう報告をされたということについて、我々が、どう判断するかということだと思うので、次の議題の時に問題があれば、提案するという、発言するということが良いのではないかと、私は思います。

委員長：

ありがとうございます。時間の関係もありますので、議事の1をとりあえずここで終了し、次の議題に移らせていただきます。

1 議事

(2) 令和7年度公民館事業に向けて

2 報告事項

(1) 令和6年度公民館事業中間報告（12月末時点）について

(2) 令和7年度の市民大学開設予定について

委員長：

それでは、令和7年度公民館事業、令和6年度公民館事業中間報告（12月末時点）、令和7年度の市民大学開設予定につきまして、一括で事務局の方から説明をお願いいたします。

中央公民館 土佐館長：

最初に中央公民館よりご報告いたします。

来年度、令和7年度の公民館事業につきましては、基本的なコロナ感染対策に留意しつつ、令和6年度同様に各事業を継続して実施してまいります。なお、令和7年度は佐倉学関係の講座として「武士の食事～江戸時代の食事を作って食べてみよう」、「佐倉学歴史講座 歴史資料から学ぶ佐倉の歴史」の2件を新規に計画しております。

令和6年度の各種事業につきましては、おおむね事業計画どおり進めることができました。特に佐倉高校との連携事業「将棋入門ワークショップ～考える力を養おう」や、佐倉学講座「生活を楽しむはじめての写経」は好評で、次年度も続けてほしいという要望がありました。また、佐倉市制70周年企画展示「写真と資料でみる佐倉市の誕生」も、70年前の佐倉市の様子を具体的写真と資料で理解することができたと好評でした。

次に、令和7年度の市民大学開設状況についてですが、中央公民館より志津公民館、根郷公民館の分も説明いたします。

中央公民館の「佐倉市民カレッジ」につきましては、基本的な運営は令和7年度も今年度と同様にて進めてまいります。令和6年度からは、ウォークラリーや学び合い学習など、1日通しの日程も実施しており、令和7年度も継続してまいります。なお、令和7年度につきましては、募集人数100名、参加費1万円の予定です。

また、第1回目の公民館運営委員会にてお話し申し上げた「市民カレッジ卒業生の再入学」につきましては、昨年来の公民館運営審議会委員のみなさまのご意見や、カレッジ運営に関わる社会教育指導員、公民館職員において検討しました。その結果として、令和7年度は「再入学」ということではなく、「有料公開聴講制度」を運用するなかで、卒業生も受け入れてゆく予定です。この「有料公開聴講制度」につきましては、令和元年度第4回の公民館運営審議会でご承認いただいております。その後のコロナ禍により実施していなかったのですが、来年度より実施する形となります。詳細につきましては、追加配布いたしました「佐倉市民カレッジ

有料公開聴講制度について」をご参照ください。

志津公民館の「しづ市民大学」につきましては、今年度と同様に1コース30名の計3コース、年間12回半日で実施いたします。

根郷公民館の「根郷寿大学」につきましては、今年度と同様に80名、年10回で実施いたします。

令和7年度の市民大学開設予定につきましては、以上でございます。中央公民館からは以上です。

和田公民館 山本館長：

和田公民館長の山本と申します。

来年度・令和7年度の公民館運営（資料2・P5～7）は、地域の課題を踏まえ、各種団体等と連携を図りながら、令和6年度同様に、各事業を継続して実施してまいります。

和田公民館の主たる事業は、和田地域学となりますが、今年度と同様に講義や現地見学等を中心に実施してまいります。

令和6年度の各事業（資料3・P3～4）は、現在まで概ね事業計画のとおり進めることが出来ております。ただ、家庭教育事業の子育て教室は、地域の講師の方と協議した結果、対象者であります幼児親子の参加見込みが難しいということから、今年度の開催は見送ることにいたしました。また、青少年教育事業の「軽スポーツ大会」や「子ども芸術鑑賞会」は計画どおり開催をすることが出来ました。和田公民館は以上です。

弥富公民館 秋山館長：

弥富公民館の秋山でございます。お手元の資料2、9ページをお願いいたします。

令和7年度の主催事業につきましては、先ほど委員のご指摘もございましたが、厳しい財政状況をかんがみ、改めて各事業の精査、併せまして報償費につきましても見直しを図りつつ、おおむね今年度と同規模の事業計画となるよう配慮いたしました。

主要な事業では、引き続き、佐倉っ子塾「弥富剣道教室」を実施する予定でございます。各地域団体との協力・連携についてでございますが、弥富地区に今も残る伝統行事、文化の継承に努めるとともに、公民館が地域におけるコミュニティ活動の拠点、学び、集いの場としての役割を果たしてまいりたいと考えております。

次に、令和6年度、公民館事業の進捗でございます。災害や施設トラブル等による中止はなく、すべての事業が順調に実施されております。

今年度の利用件数は、前年同月比で、22ポイントの増、利用者数につきましては4割以上の増加と、回復基調にあり、公民館といたしましては、このようなにぎわいは、非常にうれしい限りでございます。

主催事業における利用者アンケートでは、総じて好評な意見が多かったですが、利用が高齢者に偏る傾向があり、若い方の利用が少ない状況でございます。こちらにつきましては、幅広い世代に向けて興味や関心をもっていただけるような取組に向けて、ひと工夫する余地があるものと認識しております。弥富公民館は以上でございます。

根郷公民館 佐久間館長：

根郷公民館長の佐久間でございます。

令和7年度公民館運営につきましては、今年度利用件数は、コロナ禍前の水準に戻っていませんが、昨年度に比べて微増の傾向のなか、今年度同様に地域の歴史、自然、文化の特性を生かしながら市民のニーズをとらえた事業を実施してまいりたいと考えております。

根郷公民館の主たる事業は、青少年教育の「子ども体験講座」です。継続して生涯にわたる学習活動の基礎となる青少年期に、伝統文化、ものづくり、地元の工場見学などを通じて、子どもの自主性や創造力、地元への親しみを育む機会を提供します。夏休みに、絵画教室、作文教室、勾玉づくり、工場見学、ハーバリウム作りの5講座を行う予定です。

また、先程報告させていただきました「根郷寿大学」を、昨年度同様にグループ80名、10回で実施する予定です。

新規事業として「読書感想文講座」にかわり、「作文教室」を実施する予定です。

今年度の新規事業の、「家族で体験教室」、「工場見学」、「オリジナルハーバリウム作り」、「御朱印帳作り」については継続する予定です。

令和6年度につきまして、現在まで、事業を計画どおり実施しております。

事業計画以外にも夏休みに「オリジナルハーバリウム作り」、11月に密蔵院大祭の講座に絡めて「御朱印帳作り」を実施しました。計画していた新規3講座のうち「家族で体験教室」は定員に達しませんでした。他は、定員を満了し、アンケート結果も好評でした。根郷公民館は以上でございます。

志津公民館 今川館長：

事業のお伝えをする前に、講座のお知らせがございまして、お願いいたします。佐倉西高校に佐倉市飯郷作遺跡という遺跡があるのですが、その遺跡に関する説明会を3月8日に行う予定です。まだ空きがありますので、委員さんにつきましては、志津公民館へお電話いただければ、お席の方をご用意出来ますので、2月17日までにご興味ありましたら、ぜひ参加の方をお願いいたします。

続きまして、志津公民館の事業について説明いたします。資料の17ページをご覧ください。来年度の事業で変更した点についてご説明いたします。

上から三つ目の「青少年教育」のうち、「ちょこっとボランティア」を「地域連携」に変更しました。これは、今年度から行っている中高生の公民館連携事業を今後も継続したいと考えているため、変更したものです。

その下しづ市民大学の3つのコースのうち、今年度コースの「みんなの家政学」について、好評でありました調理実習を増やしたため、コースの内容が分かりやすい「美味しい活動」に名称変更を行う予定です。

次に令和6年度の各事業につきましては、現在まで事業計画のとおり進めることができました。青少年教育の「志津こども教室の社会科見学」については、中学生・高校生の公民館講座への参加を目的にライブハウス見学の新規企画をしました。しかし、中高生本人からの申込に結び付くまでが難しく、参加者を集めるのに苦労しました。ですが、結果としては広報番組「ウィークリーさくら」からの取材もあり、テレビ放送もされ、内容としてはとても満足のいくものとなりました。同じく青少年教育のちょこぼら「公民館でちょこっとボランティア」については、さきほども少し触れましたがボランティアの実績ではなく、高校生による志津公民館まつりのプログラム作成という地域連携事業としての実績となりました。志津公民館につきましては、以上でございます。

臼井公民館 猪股館長：

臼井公民館・音楽ホール館長の猪股です。令和7年度公民館事業計画についてご報告いたします。資料の21頁から23頁をご覧ください。

令和7年度の臼井公民館の運営は、令和6年度と同様に、音楽ホール・公民館図書室との複合施設という特性を生かし、臼井・千代田地区の歴史・文化・環境等を取り上げた各事業を実施してまいります。

続きまして、令和6年度事業の中間報告です。資料の13頁・14頁をご覧ください。

令和6年4月から12月の事業実施状況からその一部をご説明いたします。

音楽ホールとの連携で定期開催したストリートオルガンコンサートは、目標を前年度目標の各回平均15人から2倍の各回平均30人となりましたが、各回平均37人の参加がありました。なお、近隣保育園からの要請や社会教育課・こども政策課の各種催事に合わせた臨時演奏会も開催しました。

また、資料に記載はございませんが、公民館図書室との連携として通年のブックリサイクル、こども政策課の催事に合わせた児童書ブックリサイクル、音楽ホールハンドベルコンサートに合わせた松ぼっくりクリスマスツリーのワークショップを開催しました。臼井公民館の説明は、以上でございます。ご審議の程よろしくお願いいたします。

委員長：

何かご質問がある方、いらっしゃいますか。

委員：

根郷公民館にちょっとお願いしたいのですが。剣道の講座ありますよね。

根郷公民館 佐久間館長：

それは弥富公民館になります。

委員：

すみません、弥富ですか。弥富で立身流やっておられますよね。一生懸命やっていますね、県の文化財になっていると思うのですが、これは提案ですけれども、10月かな、佐倉市の文化祭がありますよね。あの時に演武されたら子ども達も集まるだろうし、あれは、私も見せてもらったのですが、すごい立派なものですよということで、弥富の小学校の体育館だけではないでなくて、全体の例えば市の文化祭とかで、発表されるというようなことも何か考えてもいいのかなと、こういうふうに思っております。

弥富公民館 秋山館長：

ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございます。やはり県の文化財ということでございまして、弥富のみならず、広く市民の方にも知らしめるというのはですね、検討して参りたいと考えております。以上でございます。

委員長：

何か他にある方、いらっしゃいますか。

委員：

はい。中央公民館の市民カレッジについて、意見を。毎年のように、受講生が減っている。このことを卒業生として非常に危惧しております。見ていると、社会教育指導員の先生が、それぞれ4つの専門コースを担当されておられるのですが、ずっとこの4つのコースが続いているのですね。いまの人達に、だんだん合わなくなってきているのではないかと。これはコースを減らす必要はないので、さらに予算の関係もあるのかもしれないけれど、増やしていただきたい。特に自分自身、環境に関して非常に興味があつてですね、特に1年生2年生の間でも、それぞれすごい先生方に講座をお持ちいただいて、佐倉の水環境とか、いろいろ、ゴミの問題とか、様々な環境面に関する講義をしていただいています。非常に刺激的でありまして、それらを活かす様な専門コースがあれば良いなど。5コースになるかもしれないのですが、個人的な希望として、持っております。

今すぐこれを変えるなんて無理ですので、ご検討いただいでですね、将来的にもっとコースがいろいろな形で出てくれば、参加者、受講生がもっと増えるのではないかと。せっかくですね、素晴らしい市民カレッジだと思うので、4年間するというのは、他の市には、なかなかないところだと思うので、是非これはですね、強くお願いするところでございます。以上です。

委員長：

ありがとうございました。

中央公民館 土佐館長：

貴重なご意見ありがとうございました。しっかりとOBの方々からも、いろいろなご意見をいただいております。私も館長としては1年ですが、市民カレッジは昔は講師をしたこともありますので、そして思えば、繋がり結構ありますので、やはり、社会変動に伴って、過渡期にきていると思うのですよね、カレッジも。だから、その点を踏まえたうえで、十分検討していきたいなと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

委員長：

先ほど、志津公民館長から遺跡の講座のPRがありました。私、いつも思うのですが、こうい

チラシを作る時には、少なくとも、チラシには、県指定史跡だということを入れて欲しいです。この遺跡に関しては、私もすごく忸怩たる思いがあるのです。せっかく県指定史跡に指定されているので、昭和54年に指定されたとか、そうしたことをやはり、募集の際にはその1行が物を言うことがあるかと。どうかその辺をお願いしたいです。他にご意見は。とりあえず時間が着々と進んでしまっておりますので、この辺で。

委員：

ちょっと1つだけ、どうしても言いたかったことがあって。

今回の資料では令和6年と次年度の資料をもらっているのですけれども、令和6年の今は途中ですけれども、定数割れしている事業を次年度も計画しているものが沢山あります。もちろん定数割れしていない公民館もあるのですけど。何だか、募集人員を下回っているのですね、令和6年度がそうだったとして、いろいろあるでしょうからとも思うのですが、ちなみに、遡って令和5年度から比べて、5年度、6年度と参加者数が募集人員の半数以下の事業、それを7年度も全く同じにやっているのがいくつかあるのです。これは余程の覚悟があるのだろうなと思えますが、例えば、防災講座で根郷公民館の防災キャンプ。そして、志津公民館の家庭教育講座、臼井公民館の理科実験室と水辺の観察室。おそらくここのは何か違うのでしょうか、年度引き続いて定数割れしている事業をそのまま出しているというのは、おそらく、我々これすぐ評価出来ないと思えますよ。余程の内容がないと。社会教育主事研修会で、そういったことを情報交換しているのでしょうか。うちはこうだけどって、そういう話をしているのでしょうか。この事業は、うちの方ではこういうふうな定数割れをしているのだけど、何か問題ないだろうか。そういったことは必ず話し合えばと思います。それが公民館法の定めるところの社会教育主事の仕事ですから。

こういう仕事の方に、なんでこの講座したの。これは、この中にはいらっしやいませんから、もうあえて申しますけども、これは数年前ですけどね、その方はですね、去年この講座でやったから、するのだよっておっしゃいました。何でこの先生でやるのかと言ったら、これは担当がこれでいいと言ったから。あなたは講座講師の先生のどんな論文を読んで、どれでこの先生を推挙することにしたかそこで質問したのですけど、もちろん、答えられませんでしたよ。

私は、その先生をあえて、なにかそういうのは、佐倉市がこれは文化財の話になりますけども、佐倉市が考えている本佐倉城の。おおきく違う、城が出来た年号とですね、その先生が論文に書いていらっしやる年号は50年も違うのですよ、そういう先生。

佐倉市の公民館は、本佐倉城の講師として呼ぶ公民館事業として、よくこれって文化課がどういうのか、佐倉市の掲げる説と齟齬が生じてしまいますよね。それとも、さらに、その方がよっぽど勉強しないで、前年度の事業の踏襲に続いているだけの話かなというふうに思うのです。

我々は、ここで議論出来ませんが、少なくとも2年続けて定数割れしている事業については、余程お考えいただかなければならないと思えます。おそらく来年のこの時期、私は、まだ居ます。その時に、それらが定数割れしたと報告があったら、ちょっと怒りますよ。私だけでなく、ここにいらっしやる先生方も怒ると思えますよ。

別な言葉で言えば、それだけ税金を使って、何これ、ということになります。ちょっときつい言い方ですけども、最後にちょっと言わせていただきました。申し訳ありません。

委員長：

はい。相当きつい。まだ時間がありますから。検討していただければと思います。

それでは次いきます。その他がありますけれど。

中央公民館 土佐館長：

はい。その他といたしまして、「今後の公民館管理のありかた」と「公民館使用許可基準の見直し」についてです。

令和6年度第1回公民館運営審議会で、「佐倉市公共施設再配置計画」とも関係して、今後の公民館管理のあり方について検討を進めてゆくことをご報告いたしました。現在、各地の事例等を見ながら検討を進めているところでございます。

また、令和8年度当初に佐倉市の施設使用料の見直しがあることから、それに合わせて、公民館の利用許可基準の見直しにつきまして、近年の生涯学習施設の動向や、各地の公民館の状況を踏まえて、1年間館長会議で検討してまいりました。その結果として、設置趣旨に反しない可能な範囲内で、以下について利用を認める方向で協議をしてゆきたいと考えております。

- ・3名以上で構成される団体の利用を優先しつつも、個人の利用を認める
- ・私塾、文化教室の利用を認める
- ・入場料（参加費）を徴収する催事の利用を認める

以上でございます。

委員長：

ありがとうございます。今の館長の説明、ご了承いただけますか。ありがとうございます。

それでは時間ですね。本日も、一応用意した議事については以上でございますので、これにて、本日の運営審議会は終了といたします。皆様大変お疲れ様でございます。どうもありがとうございました。

中央公民館 土佐館長：

ちょっと1つ、私、令和7年度の審議会の予定について、ご説明申し上げ忘れておりました。

一応の予定では、令和7年度の審議会予定は、第1回目を令和7年7月23日（水）午後、第2回目を令和8年2月12日（木）午後を予定していますが、あくまでも予定でございますので、変更の可能性もございます。このほかに、臨時会を開催する場合もあり得ますので、ご承知おきください。以上です。

委員長：

そういうことです。本日は、お忙しい中ありがとうございました。

これをもちまして、令和6年度第2回佐倉市公民館運営審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。